

平成 27 年度 推薦入試試験問題（生活科学科 食物栄養専攻）解答例

【採点のポイント】

- ・ 和食が世界で評価されている理由が記されているか。
- ・ 今後の和食を維持・発展させるための課題について記されているか。
- ・ 今後の和食を維持・発展させるための解決方法について記されているか。
- ・ 全てのキーワードが記されているか。

【解答例】

和食が世界で評価されている理由には次のようなことが考えられる。まず、米を中心とした一汁三菜の伝統的な和食では、魚介類や野菜・山菜など多様な食材が用いられている。これは、和食の栄養バランスを優れたものにし、日本人の長寿や肥満防止につながっている。次に、日本には明確な四季があり、食材には旬がある。周囲を海に囲まれた南北に長い地形によって変化に富んだ食材がもたらされている。また、日本の食文化は年中行事と密接に関わっている。年中行事等を通じた共食は家族や地域社会とのコミュニケーションを高め、豊かな人間性や社会性を育成する。さらに、和食では盛り付けに工夫を凝らしている。自然の美しさや季節の変化を表現し、食事を目でも楽しむことができる。

しかし、今後、和食を維持・発展させるには多くの課題がある。食の欧米化の進展やライフスタイルの変化によって、外食・中食やファストフードが増え、米や魚介類の摂取量が減少し、肉・乳製品の多い食事になったことで動物性脂肪の摂取が増え、炭水化物・脂質・タンパク質の栄養バランスが崩れてきた。その結果、肥満などの生活習慣病が増えてきている。

また、高齢化や後継者不足から農業従事者数が減少してきている。食料自給率は40%以下になり、先進国でも最低である。食料の多くを輸入に頼っていることから、食品偽装、残留農薬や薬物の混入事件など、食の安心・安全が脅かされている。

これらの課題を解決するためには、地域の食材を使った料理法などを伝える講習会や料理教室を開き、郷土料理や伝統食など、和食を再認識してもらう機会を増やすことが必要である。また、地産地消を推進することによって、農業と地域社会を活性化させ、食料自給率を向上させることができる。さらに、家庭、学校、地域が協力して、食育を推進することが求められる。

(794 字)